



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月4日

上場会社名 ヤマシンフィルタ株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6240 URL <http://www.yamashin-filter.co.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長執行役員(氏名) 山崎 敦彦  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役専務執行役員(氏名) 井岡 周久 (TEL) 045(680)1671  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 2022年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	9,123	△4.5	521	△41.3	458	△47.7	271	△17.4
2022年3月期第2四半期	9,556	45.6	887	—	876	—	328	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 476百万円( 56.3%) 2022年3月期第2四半期 304百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	3.80	—
2022年3月期第2四半期	4.60	4.52

(注) 2023年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在しないため、記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	26,609	20,924	78.6
2022年3月期	26,712	20,571	77.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 20,924百万円 2022年3月期 20,571百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	3.00	—	3.00	6.00
2023年3月期	—	3.00			
2023年3月期(予想)			—	3.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,230	2.2	1,380	2.6	1,240	△5.9	855	—	11.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
  - ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期2Q	71,567,384株	2022年3月期	71,405,570株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	988株	2022年3月期	571株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期2Q	71,458,725株	2022年3月期2Q	71,362,714株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予測の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(2) 当社は、2022年11月18日（金）に証券アナリスト及び機関投資家向けに決算説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 経営方針及び対処すべき課題	6
(1) 経営方針	6
(2) SDGsへの取り組み	6
(3) 対処すべき課題	6
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### 1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当第2四半期連結累計期間（2022年4月1日～2022年9月30日）における世界経済は、インフレ抑制を目的とした各国政策金利の大幅利上げによる急激な円安の進行や、中国でのゼロコロナ政策の継続による経済活動の停滞、欧州での地政学リスクの長期化を背景としたエネルギー・原材料価格の高騰が継続しており、依然として先行き不透明な状況が継続しております。

このような環境の中、当社グループの主力事業である建機用フィルタ事業においては、北米市場では、金利上昇と材料不足の影響により住宅着工件数は減少傾向にあるものの、需要は底堅く推移しました。日本、欧州、アジアといった主要地域においても、需要は前年度からは減少傾向にあるものの、建機の稼働時間と新車需要は堅調に推移しました。一方、中国市場におけるロックダウンの影響等により、当第2四半期連結累計期間における当社の売上高は減少いたしました。また、利益面では、価格転嫁の実施により収益性は回復傾向にありますが、アルミや鋼材等の主要原材料価格や海上輸送費の高止まりの継続や、急激な円安の影響により減益となりました。

当社グループは、引き続き、環境負荷低減に貢献するロングライフのフィルタ製品やタンク内の気泡を除去するエアレーション技術、フィルタの汚染度や交換頻度を感知するセンサ技術を搭載した高付加価値フィルタ製品の主要得意先への提案を進めており、各建機メーカーの新機種への製品供給が順次開始されております。

また、主要市場である北米市場においては、世界最大手建機メーカーに対する当社の燃料用、トランスミッション用フィルタ等の新規提案・採用が進展しております。一方、減益要因となっている物流コストや原材料価格の高騰、為替変動に対しては、価格転嫁を実行するとともに、原価改善プロジェクトPAC22の推進、サプライチェーンの見直しや生産地移管によるグローバル生産供給体制の構築により、原材料調達安定化と物流コストの低減を図ります。また、為替変動リスクのヘッジ手段として、為替予約含めた効果的な手段をタイムリーに実行することでリスクの最小化を図り、激変する外部環境変化への適応力を強化し、収益性の改善に努めてまいります。

エアフィルタ事業においては、主要製品である、ビル空調用フィルタの交換需要は回復傾向にあり、売上高は増加いたしました。利益面では、原材料価格の高騰に対して価格転嫁の実施や、生産効率の向上や経費削減効果により、増益となりました。また、新たにロングライフであり低圧損、高捕集率のナノファイバー製エアフィルタ（製品名：NanoWHELP）や溶菌・酵素エアフィルタの、オフィスビルや病院、工場、鉄道車両等への採用は着実に進展しており、更なる収益の改善が見込まれます。今後、欧米市場でのエアフィルタ性能の規格（米国規格ASHRAE、欧州規格EN等）を取得し、海外市場の開拓にも取り組んでまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は91億23百万円（前年同四半期比4.5%減）となり、営業利益は5億21百万円（前年同四半期比41.3%減）、経常利益は4億58百万円（前年同四半期比47.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億71百万円（前年同四半期比17.4%減）となりました。

## 2. 連結業績

当第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）業績について

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	9,556	9,123	△433	△4.5%
営業利益 (利益率)	887 (9.3%)	521 (5.7%)	△366 —	△41.3%
経常利益 (利益率)	876 (9.2%)	458 (5.0%)	△417 —	△47.7%
親会社株主に帰属する四 半期純利益 (利益率)	328 (3.4%)	271 (3.0%)	△57 —	△17.4%

売上高については、建機用フィルタ事業において、5.4%の減収となった一方で、エアフィルタ事業において売上高は1.5%の増収となったことから、全体では4.5%の減収となりました。

営業利益については、建機用フィルタ事業において、価格転嫁の進展により改善傾向にはあるものの世界的なロジスティクスの混乱による海上輸送費や、アルミや鋼材を中心とした主要原材料価格の高騰の継続、急激な円安の進行により41.3%の減益となりました。

経常利益については、営業利益の減少に伴い、47.7%の減益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、経常利益の減少及び前第2四半期に減損損失2億43百万円を特別損失として計上したこと等によりに伴い17.4%の減益となりました。

### 3. 事業セグメント別の売上高と営業利益

第1四半期連結会計期間より、ヘルスケア事業の連結業績への影響を鑑み、建機用フィルタ事業に含めて開示することといたします。このため、報告セグメントを従来の「建機用フィルタ事業」「エアフィルタ事業」「ヘルスケア事業」から、「建機用フィルタ事業」「エアフィルタ事業」に変更しております。また、本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の費用につきましては、各社が属するセグメントに配賦する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法及び配賦方法により作成したものを記載しております。

(建機用フィルタ事業) (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) 業績について

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	8,304	7,852	△451	△5.4%
営業利益 (利益率)	951 (11.5%)	516 (6.6%)	△434	△45.7%

売上高については、建機の稼働時間と新車需要は堅調に推移した一方で、中国市場におけるロックダウンの影響等により、5.4%の減収となりました。

営業利益については、世界的なロジスティクスの混乱による海上輸送費や原材料価格の継続的な高騰、急激な円安の進行により45.7%の減益となりました。

(エアフィルタ事業) (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日) 業績について

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	増減額	増減率
外部売上高	1,251	1,270	18	1.5%
営業利益又は営業損失(△) (利益率)	△63 (△5.1%)	4 <sup>4</sup> (0.4%)	68	—

売上高については、経済活動の回復に伴いビル空調用フィルタ需要は回復傾向にあることにより、売上高は増加いたしました。

営業利益については、価格転嫁の実施及び生産効率の向上や経費削減効果により増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末比34百万円増加（前連結会計年度末比0.2%増）し、139億99百万円となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が42百万円減少（前連結会計年度末比0.9%減）、流動資産のその他が4億69百万円減少（前連結会計年度末比63.3%減）した一方で、現金及び預金が2億19百万円増加（前連結会計年度末比5.9%増）、商品及び製品が2億67百万円増加（前連結会計年度末比9.7%増）、原材料及び貯蔵品が62百万円増加（前連結会計年度末比3.1%増）したことによるものです。

### (固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末比1億37百万円減少（前連結会計年度末比1.1%減）し、126億10百万円となりました。その主な要因は、機械装置及び運搬具が2億90百万円増加（前連結会計年度末比25.6%増）した一方で、建物及び構築物が47百万円減少（前連結会計年度末比0.9%減）、建設仮勘定が2億32百万円減少（前連結会計年度末比23.1%減）、ソフトウェアが55百万円減少（前連結会計年度末比28.3%減）、繰延税金資産が70百万円減少（前連結会計年度末比12.7%減）したことによるものです。

### (流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末比2億36百万円減少（前連結会計年度末比5.1%減）し、43億97百万円となりました。その主な要因は、短期借入金が12億円増加した一方で、支払手形及び買掛金が6億50百万円減少（前連結会計年度末比29.4%減）、未払法人税等が1億12百万円減少（前連結会計年度末比54.1%減）、資産除去債務が1億28百万円減少（前連結会計年度末比100.0%減）、その他が5億36百万円減少（前連結会計年度末比56.2%減）したことによるものです。

### (固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末比2億19百万円減少（前連結会計年度末比14.6%減）し、12億87百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が2億1百万円減少（前連結会計年度末比17.9%減）、その他が22百万円減少（前連結会計年度末比15.1%減）したことによるものです。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末比3億53百万円増加（前連結会計年度末比1.7%増）し、209億24百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が97百万円増加（前連結会計年度末比1.3%増）、為替換算調整勘定が2億4百万円増加（前連結会計年度末比64.5%増）したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

### ① 建機用フィルタ事業

前回通期の業績見通しを公表した2022年5月13日時点と比較し、主要得意先の生産活動や建機の稼働時間は、中国を除く日本、米国、欧州、アジアといった主要市場においては、前年度と比較し減少傾向にあるものの、需要は引き続き高水準で推移しており、今後も堅調に推移することが見込まれます。一方で、欧州での地政学リスクを背景としたサプライチェーンの混乱に伴う物流コストや、鋼材やアルミ材といった主要原材料価格の高騰は、足許では調整局面を見せるものの高止まりが継続しており、日米金利差拡大に伴う急激な円安の進行が拍車をかけ、当社の業績に大きな影響を及ぼしております。

当社はこのような環境変化に対応するため、原価低減活動の継続に加え、価格転嫁を実行しており、その効果により、売上高及び利益面で大幅な改善が見込まれ、前回公表値を上回る見通しであることから業績予想の修正を行います。



## ② エアフィルタ事業

主要製品である、ビル空調用フィルタの交換需要は回復傾向にありますが、通期では前回公表値をわずかに下回る見通しです。

一方、利益面では、原材料価格の高騰に対して価格転嫁を実施したことや、生産効率の向上や経費削減効果により、増益が見込まれることから業績予想の修正を行います。

なお、2023年3月期の想定為替レートにつきましては、米ドル145円、ユーロ144円に変更いたします。

今後、市場環境の変化が業績等に影響を与える場合には速やかに開示いたします。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 経営方針及び対処すべき課題

### (1) 経営方針

当社グループの経営理念は「仕濾過事」（ろかじにつかふる）であります。

「仕濾過事」（ろかじにつかふる）には、フィルタビジネスを通じて社会に貢献するという意思が込められており、当社グループは、この不変のDNAを通じ、フィルタビジネスを通じて「環境」、「空気」、「健康」をテーマにESG等の社会的課題解決に取り組み、コーポレート・サステナビリティの強化に努めるとともに、企業価値の最大化を図ってまいります。

また、企業価値の最大化の実現に向け、当社グループでは以下の三つの規範（経営姿勢、使命、行動指針）を掲げております。

### (2) SDGsへの取り組み

昨今、企業に対する社会からの期待や責任は多岐にわたり、企業が果たす役割の重要度はますます高まっています。当社グループは、1956年創業以来、経営理念として「仕濾過事」（ろかじにつかふる）を掲げ、お客さまやビジネスパートナーに対してはもちろん、国や地域、自然や地球環境に対してもよい関係をつくり、社会的な責任を果たしてまいります。この理念は2015年、国連にて採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の考え方も合致しております。社会を構成する一員として、企業に対しても大きな期待が寄せられている中、当社グループはサステナビリティの視点を踏まえた経営を促進するため、組織体としてSDGs推進委員会である「YSS（Yamashin Sustainable Solutions）」を取締役社長の諮問機関として設置いたしました。同委員会を通じ、経営理念である「仕濾過事」（ろかじにつかふる）の具現化、技術力を生かした新たな価値創造と、脱炭素、TCFD、再生可能エネルギー、資源循環といった社会課題の解決を通じ社会に貢献してまいります。

### (3) 対処すべき課題

#### ① 事業ポートフォリオの拡大

建機用フィルタ事業においては、新技術や高付加価値化の実現による製品ラインナップの拡充や中国市場でのシェア拡大に加え、当社が確立したナノファイバーの量産化技術を軸に、主要建機メーカーの次世代グローバルスタンダードとして、ナノファイバー製油圧フィルタの開発供給を進めてまいります。また、第2の事業セグメントである、エアフィルタ事業においては、ナノファイバー技術による差別化製品の開発に努め、海外市場も視野に積極的なM&Aを含む当該事業の拡大を迅速に進めてまいります。更には、第3の事業ポートフォリオとして、様々な産業資材としての活用を踏まえた新たな事業の確立により、当社グループ全体の企業価値の向上を図ってまいります。



② 収益性の改善

当社グループでは、利益創出体制の確立を企図した全社的项目である「Project PAC 22」を立ち上げ、販売、生産、開発及び物流拠点の最適化を図り、グローバルサプライチェーンを強化し、主要市場における品質管理・保証体制を踏まえた製品供給機能、生産機能及び開発機能の適切な連携体制を整備することで継続した収益性の改善を図ってまいります。

③ 人材の育成強化

当社グループは、日本・欧米・アジア地域に販売会社、アジア地域に生産会社及び開発会社を子会社として擁し、グローバルに事業展開しておりますが、今後は、海外M&Aも踏まえた事業展開も想定されることから、より一層海外拠点の重要性が増すと考えております。このため、当社グループでは、日本国内のみならず海外拠点を含めたグループ全体の経営管理体制を担う有用な人材を育成・確保すべく、ダイバーシティ（人材の多様性）を踏まえた人材採用育成プログラムを新たに策定し、次世代の人材力強化に取り組んでまいります。

④ ガバナンスの更なる充実

当社グループは、持続的な事業成長と中期的企業価値の最大化を図ることを目的に、ガバナンス、コンプライアンス研修の拡充やフェアディスクロージャーを踏まえた情報管理の徹底等の取り組みを継続して実施しております。また、グループ会社が行う業務執行に関するリスクの監視・牽制機能（モニタリング）、内部監査で実施される評価業務の支援を目的とした社内委員会として、取締役社長の諮問機関である業務監理委員会を設置しております。同委員会の活動を通じ、より一層牽制機能の強化等による業務執行の適切な監督を行うことで経営の透明性と質の向上を図り、アカウンタビリティ（説明責任）をより明確に果たし、コーポレート・ガバナンスの強化に努めてまいります。

## 3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,750,869	3,970,767
受取手形及び売掛金	4,696,056	4,653,435
商品及び製品	2,748,254	3,016,072
仕掛品	22,077	18,462
原材料及び貯蔵品	2,004,958	2,067,816
その他	742,372	272,713
流動資産合計	13,964,590	13,999,268
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,354,734	5,307,245
機械装置及び運搬具（純額）	1,133,340	1,423,402
工具、器具及び備品（純額）	265,086	266,630
土地	3,636,821	3,636,821
建設仮勘定	1,008,033	775,140
その他（純額）	211,424	185,066
有形固定資産合計	11,609,441	11,594,307
無形固定資産		
ソフトウェア	197,101	141,372
その他	39,617	36,492
無形固定資産合計	236,719	177,865
投資その他の資産		
投資有価証券	26,890	28,400
退職給付に係る資産	8,815	9,620
繰延税金資産	552,630	482,260
差入保証金	90,628	74,961
その他	222,615	242,919
投資その他の資産合計	901,580	838,162
固定資産合計	12,747,740	12,610,335
資産合計	26,712,330	26,609,603

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,213,951	1,563,552
短期借入金	—	1,200,000
1年内返済予定の長期借入金	403,380	403,380
未払金	449,479	407,530
未払法人税等	208,173	95,526
賞与引当金	234,130	287,842
役員賞与引当金	41,985	21,777
資産除去債務	128,928	—
その他	954,159	417,817
流動負債合計	4,634,187	4,397,427
固定負債		
長期借入金	1,126,293	924,603
退職給付に係る負債	232,854	237,310
その他	147,609	125,354
固定負債合計	1,506,757	1,287,267
負債合計	6,140,945	5,684,695
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,473,936	6,499,584
資本剰余金	6,213,936	6,239,584
利益剰余金	7,567,780	7,664,903
自己株式	△164	△165
株主資本合計	20,255,489	20,403,907
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△628	359
為替換算調整勘定	316,524	520,642
その他の包括利益累計額合計	315,896	521,001
純資産合計	20,571,385	20,924,908
負債純資産合計	26,712,330	26,609,603

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	9,556,086	9,123,086
売上原価	5,547,984	5,607,125
売上総利益	4,008,102	3,515,961
販売費及び一般管理費	3,120,597	2,994,670
営業利益	887,505	521,291
営業外収益		
受取利息	1,358	1,264
受取配当金	236	566
スクラップ売却益	3,129	5,782
解約返戻金	3,200	—
その他	9,431	13,519
営業外収益合計	17,354	21,132
営業外費用		
支払利息	11,604	9,154
為替差損	13,348	62,326
その他	3,572	12,557
営業外費用合計	28,525	84,038
経常利益	876,334	458,385
特別利益		
固定資産売却益	10,322	1,249
特別利益合計	10,322	1,249
特別損失		
事業構造改革費用	8,302	—
減損損失	243,821	—
品質保証対応損失	—	10,360
災害による損失	—	3,534
固定資産除売却損	16,128	3,233
特別損失合計	268,252	17,128
税金等調整前四半期純利益	618,404	442,506
法人税等	289,984	171,093
四半期純利益	328,420	271,412
親会社株主に帰属する四半期純利益	328,420	271,412

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	328,420	271,412
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△7,244	987
為替換算調整勘定	△16,230	204,117
その他の包括利益合計	△23,474	205,105
四半期包括利益	304,945	476,518
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	304,945	476,518

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	618,404	442,506
減価償却費	422,843	435,691
減損損失	243,821	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	27,184	49,334
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	40,809	△20,208
退職給付に係る資産及び負債の増減額	△4,472	4,290
受取利息及び受取配当金	△1,594	△1,830
支払利息	11,604	9,154
為替差損益(△は益)	△7,059	8,893
固定資産除売却損益(△は益)	5,806	1,984
事業構造改革費用	8,302	—
品質保証対応損失	—	10,360
災害による損失	—	3,534
売上債権の増減額(△は増加)	△422,891	216,960
棚卸資産の増減額(△は増加)	△1,100,729	△190,884
仕入債務の増減額(△は減少)	439,908	△752,912
その他	370,346	387,345
小計	652,284	604,219
利息及び配当金の受取額	1,535	1,710
利息の支払額	△11,607	△9,146
法人税等の支払額	△237,175	△252,478
法人税等の還付額	41,924	—
事業構造改革費用の支払額	△8,302	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	438,658	344,304
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,032,992	△816,088
有形固定資産の売却による収入	10,322	11,645
無形固定資産の取得による支出	△35,236	△7,657
その他	△732	△101,365
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,058,639	△913,465
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△203,388	△201,690
短期借入金の純増減額(△は減少)	△600,000	1,200,000
自己株式の取得による支出	—	△0
リース債務の返済による支出	△5,949	△59,283
配当金の支払額	△203,165	△214,119
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,012,503	724,906
現金及び現金同等物に係る換算差額	765	64,151
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,631,717	219,897
現金及び現金同等物の期首残高	7,197,536	3,718,869
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,565,818	3,938,767

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	建機用 フィルタ事業	エアフィルタ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,304,350	1,251,735	9,556,086	—	9,556,086
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	8,304,350	1,251,735	9,556,086	—	9,556,086
セグメント利益又は損失 (△)	951,223	△63,718	887,505	—	887,505

(注) セグメント利益又は損失の金額は、四半期連結財務諸表の営業利益と一致しております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(1) 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)
	建機用 フィルタ事業	エアフィルタ 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	7,852,873	1,270,212	9,123,086	—	9,123,086
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	7,852,873	1,270,212	9,123,086	—	9,123,086
セグメント利益	516,524	4,766	521,291	—	521,291

(注) セグメント利益の金額は、四半期連結財務諸表の営業利益と一致しております。

(2) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、ヘルスケア事業の連結業績への影響を鑑み、建機用フィルタ事業に含めて開示することといたします。このため、報告セグメントを従来の「建機用フィルタ事業」「エアフィルタ事業」「ヘルスケア事業」から、「建機用フィルタ事業」「エアフィルタ事業」に変更しております。また、本社及び一部子会社の管理部門の一般管理費等の費用につきましては、各社が属するセグメントに配賦する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法及び配賦方法により作成したものを記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。